

ウォーター・ホース

2007(平成19)年12月25日鑑賞<ソニー・ピクチャーズ試写室>

★★★



監督=ジェイ・ラッセル/原案=ディック・キング=スミス (『The Water Horse』の著者)
/出演=エミリー・ワトソン/アレックス・エテル/ベン・チャップリン/デヴィッド・モ
リッシー/ナレーター=ブライアン・コックス (ソニー・ピクチャーズ エンタテインメン
ト配給/2007年アメリカ映画/112分)

……韓国の漢江の怪物は「グエムル」だったが、スコットランドのネス湖に
眠る未確認動物はネッシー。この映画で確認できるウォーター・ホースの
姿・カタチをみると、それはやはりネッシー……？ 前半は孤独な少年とク
ルーソーと名づけられたウォーター・ホースとのファンタジー色あふれる友
情物語だが、後半は兵士たちの介入によってスリリングな展開に……。異質
なクライマックスシーンを2度味わえるからお得(?)だが、それは子供の
ような純真な心で鑑賞することが大前提……。



信じる……？ それとも信じない……？

師走を迎えた日本では、未確認飛行物体(UFO)が日本を襲来した場合、石破茂
防衛大臣が「防衛省として取り組むことはないが、わたし自身としてどうなるのかは
考えたい」と発言したことについて、いろいろと議論ががまびすしいが、UFOにつ
いてのあなたの見解は……？

UFOの存否とおなじくらい話題性のある(?)議論が、スコットランドのネス
湖で目撃されたとされる、未確認動物「ネス湖の怪獣」ことネッシーの存否。この映
画のタイトル『ウォーター・ホース』とはつまり、ネッシーのことだ。

映画の冒頭、観光客のアベックに対して静かにウォーター・ホースの物語を語り始
める1人の老人が登場する。彼こそは少年の時ウォーター・ホースとただ1人の親友
となったアンガス少年(アレックス・エテル)の年老いた姿だ。彼の話を興味深そう
に聴き始めたアベックは、聴き終えた時にはウォーター・ホースすなわちネッシーの

存在を信じるようになるのだろうか……？ そして、この映画を観たあなたは、ネッシーの存在を信じる……？ それとも信じない……？

テーマは友情

この映画の主人公は戦場に行ったきり戻ってこない父親を待ちわびる少年アンガス・マクマロウ。母親のアン（エミリー・ワトソン）は既に夫の帰還を諦めているが、アンガスの心はそんな現実を受け入れることができず、空虚なまま。そんなアンガスが唯一の友情を育むことになったのが、アンガスがクルーソーと名づけた謎の生き物。

クルーソーはアンガスがネス湖から持ち帰った青く光る不思議な卵から孵化して生まれてきた奇妙な生き物だが、傷の手当てをしてくれたアンガスによくなつき、2人(?)は無二の親友に……？

この映画はそんなアンガスとクルーソーとの友情と絆がテーマだが、やはり生きる世界が違うとその維持は大変。だって、クルーソーは成長の速度がバカ早いから、いくらアンガスのお屋敷が広いといっても、クルーソーを隠し通すことなど到底不可能……。

クリーチャーの出来が勝負！

この映画の第1のポイントは、アンガス少年とウォーター・ホースとの友情、心の交流だが、第2のポイントはクリーチャーの出来。つまり、スクリーン上に登場するウォーター・ホースがどれくらい観客に認められるかということ。

ちなみに、ポン・ジュノ監督の『グエムル 漢江の怪物』(06年)は、観客動員数が1300万人を超す韓国映画史上No.1の大ヒットとなったが、その原因の1つがポン・ジュノ監督が創造した怪物グエムルを観客が受け入れたこと。そこで、今回のクリーチャーであるウォーター・ホースをどこが製作したのかを調べると、それはウェタ・デジタルとウェタ・ワークショップ。そして、何のことはない、『グエムル』もこのウェタ・ワークショップが製作していたということを知って、ビックリ……。さらに、この映画では巨大なウォーター・ホースだけではなく、幼児期のウォーター・ホースと少し成長したウォーター・ホースの他、卵時代のウォーター・ホース(?)もつくりあげなければならないから、その手間は大変。さて、愛嬌のあるウォーター・ホースの出来は……？

対照的な男が2人——その1

この映画にはクルーソーをめぐっても、またアンガスをめぐっても対照的な男が2人登場する。時代は第2次世界大戦の真ただ中。アンガスたちが住んでいるネス湖に近いスコットランドの村は戦争など無縁だと思っていたが、ある日突然そこにイギリス軍がやってくることに。もちろんマクマロウ家の屋敷を将校たちの宿舎に使用するについては、部隊の指揮官であるハミルトン大尉（デヴィッド・モリッシー）はその許可書を持参していたから、夫の代理人としてアンがそれを承諾したのは当然。

対照的な男の第1はこのハミルトン大尉だが、これが意外といい男。しかも、アンに対して好意的。そこで、ハミルトン大尉が企画した、アンを主演とするパーティーの様子をみていると、2人は何となくいい雰囲気になりかけたが……。

対照的な男が2人——その2

第1のハミルトン大尉と対照的な第2の男が、マクマロウ家の下働きとして雇われた男ルイス・モーブリー（ベン・チャップリン）。アンガスとクルーソーとの仲(?)を最初に発見したのはアンガスのお姉さん。バスタブの中で気持ちよく泳いで遊んでいるクルーソーはいい気持だろうが、それを母親や兵隊たちに内緒にしなければならないアンガスは大変。アンガスのワケのわからない話をバカにしていたものの、クルーソーの姿を現実に見た姉が、その後アンガスに協力する立場になったのは当然。そしてそれは、大人の男モーブリーも同じ。ここにアンガスと姉そしてモーブリーの三者による秘密の連合軍が形成されることに。

もちろんモーブリーは大人だから、クルーソーの扱いをめぐって現実路線すなわちクルーソーをネス湖に返すべきだと主張したが、クルーソーと別れたくないアンガスは……？ この映画では、アンガスをめぐる男同士の対立(?)を含めて、こんな対照的な男2人が登場するから、それにも注目を。

ハミルトン大尉の自慢のタネは……？

ハミルトン大尉率いるイギリス軍部隊はここで何をやっていたのかというと、高台での砲台づくりと対潜水艦用のネットづくり。つまり、湾内に潜水艦をひき入れたうえで、ネットを張って封じ込め、その潜水艦目がけて高台から砲弾の雨を降らせよう

という作戦だ。わからなくはないが、現実そんな作戦がうまくいくのか大いに疑問だが、大尉は大真面目。

そこで、高台が完成すると、彼はどうしてもそれをアンたちに自慢したかったらしく、アンたちを招いて砲撃披露を。これにはアンガスはビックリ。だって、湖の中はクルーソーが泳ぎ回っているのだから、万一砲弾が当たったら大変。そこで、アンガスは「やめてくれ！」と身体を張って砲撃を阻止しようとしたが……。

大人はやっぱり……

アンガスはクルーソーとのデート(?)を大人たちに見つからないように注意していたが、ある日アンガスが最も嫌っている、ブルドッグ犬を飼っている食事当番の兵士から後をつけられたから、あっさりとクルーソーを発見されてしまうことに。さらに、のんびりと舟を浮かべて釣りを楽しんでいた2人の男のえさにクルーソーがひっかかったため、発見されてしまうことに。そりゃ、時間が経てば発見される確率が高くなるのは当然で、発見されたのはある意味やむをえない。しかし、それからの大人たちの対応が何ともイヤらしい……。

まず、釣り人たちは、われこそはウォーター・ホースの目撃者だという名誉とカネを得たいため、捏造写真をつくってまでウォーター・ホースの宣伝を。他方、兵士たちは、無謀にも伝説の生きものを捕獲しようと企み、武装して船の上に。アンガスがクルーソーとの友情を育てているのに対し、大人たちがウォーター・ホースを発見すると、その対応はこんなモノ。大人はやっぱり……。

2度のクライマックスは全く異質だが……

この映画のクライマックスは2度ある。1度は、ファンタスティックで楽しいアンガスとクルーソーだけの水中世界。大人たちの隙をみてはネス湖へクルーソーに会いにいったアンガスを、ある日クルーソーは背中に乗せて湖中散歩に……。といっても、馬に鞍をつけて乗るようなわけにはいかず、アンガスは巨大なクルーソーの裸の背中の上に腕を回してしがみついただけだから、本当は不安定で、少し揺れたら振り落とされること確実。しかし、そこは映画のこと。水中撮影の高度な技術を駆使した美しい映像は、この映画最大の売りで、大人も十分楽しめる出来。

こんな平和で誰もが楽しめるクライマックスに対して、2度目のクライマックスは

非情かつ野蛮なもの。それは、クルーソーを潜水艦と勘違いしたイギリス兵たちが、クルーソーに向かって猛烈な砲撃を始めたこと。いくらクルーソーが巨大でも砲弾の嵐の前には無力だし、巨大であるということは逆に標的にされやすい。したがって、このままではクルーソーが砲弾の餌食になるのは時間の問題……。

しかも、潜水艦を封じ込めて通過させないための対潜ネットが今着々と張られていたから、早くこれを越えて外に出なければ、クルーソーは袋のねずみに……。そんなスリリングなクライマックスは、クルーソー得意の(?)ジャンプと対潜ネットへの体あたりによって、あっと驚く何とも痛快な結末へ。めでたし、めでたし……。

2007(平成19)年12月30日記

ミニコラム

祝！ 6人目の永世名人誕生！

全米オープンでタイガー・ウッズがトリプル・グランドスラムを達成した08年6月17日、日本では羽生善治王座・王将が森内俊之名人を破り、名人位を奪取した。羽生の名人位はこれで通算5期となったため、実力制になって6人目、第19世永世名人の称号を獲得することに。大相撲の朝青龍 vs. 白鵬対決はどこか白けた目で見てしまうが、その責任は日本人力士のだらしなさの他、夏場所千秋楽の横綱対決で見せた取組後のにらみ合いなど両横綱のお行儀の悪さにもある。それに対して、羽生と森内が見せる「盤上の格闘技」には「礼に始まり礼に終わる」勝負の「品格」がある。

96年に7冠王となった羽生は、これで6冠について永世の称号を獲得した。竜王戦で渡辺明竜王からタイトルを奪

取すれば永世竜王となるから、前人未踏の永世7冠も目の前だ。

左ひざの再手術のためタイガーが今季の残り試合をすべて欠場するのは残念だが、1000局以上対局した棋士で、ただ1人7割を超える勝率を誇る羽生はまだ37歳。40歳を超えると棋士は下り坂になるとの説もあるが、天才羽生が今後どこまで前人未到の領域に到達できるかは、大いに楽しみだ。第66期名人戦で展開された全6局はすべて力戦模様で、次々とくり出される新手にファンは大喜び。第3局終盤での森内の大ボカによる歴史的な逆転を含めて、まさに「平成の名勝負」となった。そんな激闘を制して永世名人となった羽生さん、おめでとう！

2008(平成20)年6月20日